

2018年10月26日

中国・四国地方の日本広報学会会員各位
博物館・美術館・各種文化施設等で、広報・コミュニケーションをご担当または研究されている皆様
企業・各種団体・病院・大学・行政において広報をご担当の皆様
PR エージェンシー、広告関係の皆様

日本広報学会
中四国部会
部会長 島津 英昌
顧問 菅原 正博
顧問 石橋 陽

2018年11月24日(土)

『コーポレート・コミュニケーション(以下 CC)の課題解決に向けての
ディスカッションとプレゼンテーションに取り組む』 研究事例・交流部会

【今回のテーマ】 博物館・美術館等、ミュージアムのコーポレート・コミュニケーションの
課題解決のためのディスカッション

拝啓 秋冷の候 ますますご清栄のこととお慶びを申し上げます。

さて、私ども日本広報学会は、設立から23周年を迎え、企業・行政・団体から非営利組織まで、経営体の広報・コミュニケーション活動を研究の対象としております。実践の場においても意義のある研究にするため、研究者だけでなく、広報・経営の実務者も会員となり、共に協力して活動していることが、他の学会にはない大きな特徴となっております。

今年度、当学会では「中四国部会」が正式に発足しました。現在、この地域において、より多くの研究者・学生、企業・団体等で広報実務を担当されている方々に当学会へご加入いただける取り組みを進めております。

その一環として、学会会員だけでなく、広く、広報、パブリック・リレーションズ、コーポレート・コミュニケーションに携わる皆さまにご参加いただける研究事例・交流部会を企画いたしました。発表者からの話題提供を受け、参加者の皆さまとともに、その課題についてディスカッションをしていく、というスタイルです。

このたびは、「博物館・美術館等、ミュージアムのコーポレート・コミュニケーション」をテーマとして取り上げます。

近年、公的な博物館・美術館では、館の運営そのものを指定管理者制にしたり、文部科学省が所有権を残したまま運営権を民間事業者へ売却する「コンセッション方式」の導入を提示するなど、財政の悪化の影響を受けた出来事が続いていることはご承知の通りです。その結果、入館者数が優先され、資料の収集・保存、調査・研究、または教育普及といった基本事業が停滞するといった問題も指摘されています。

一方、中四国では、近年、企業ミュージアムが閉鎖された事案もあり、いかに永続するかが、課題とされます。教育、文化、観光、産業といった多分野にまたがって可能性を有するミュージアムそのものの存続と促進には、理解者と支援者が必要であり、日常のコーポレート・コミュニケーション活動が求められていると考えます。

ミュージアムの広報に携わる方ばかりでなく、幅広い分野の皆さまのご参加・ご協力をお待ちしております。

敬具

【開催要領】

『コーポレート・コミュニケーション(以下 CC)の課題解決に向けての ディスカッションとプレゼンテーションに取り組む』 研究事例・交流部会

■主催: 日本広報学会 中四国部会

■日時: 2018年11月24日(土) 14:00~17:00 懇親会 18:00~

■会場: 高知県立高知城歴史博物館
〒780-0842 高知市追手筋 2-7-5 電話 088-871-1600

◎交通案内

▼JR 利用の場合

JR 高知駅から路面電車をご利用ください。

- ①高知駅前(はりまや橋方面行き 約5分)→はりまや橋下車 乗換(「乗換券」をもらって乗り換えてください)
- ②はりまや橋(鏡川橋または朝倉またはいの方面行き 約5分)→高知城前下車 徒歩約3分

※中心市街地は 200 円均一。

▼高速バス利用の場合

各地から高知市へ乗入れる高速バスで、「はりまや橋観光バスターミナル」へ。その前にある「デントツ・ターミナルビル前」から、鏡川橋または朝倉またはいの方面行きに乗車約7分→高知城前下車 徒歩約3分。

▼自動車の場合

博物館には駐車場がありません。周辺の有料駐車場をご利用ください。

■プログラム (敬称略)

13:30	受付開始
14:00~15:00	高知城歴史博物館 館内見学 ※学芸員による解説あり。
15:00~15:10	主催者挨拶・日本広報学会のご案内 日本広報学会 中四国部会 部会長 社会医療法人祥和会 広報コミュニケーショングループ課長 島津 英昌
15:10~15:50	話題提供のための座談会 テーマ:「博物館・美術館等、ミュージアムのコーポレート・コミュニケーション」 座長 一般社団法人 国際 CCO 交流研究所 (日本広報学会会員) 理事長 石橋 陽 氏

	アカデミックアドバイザー プロビジョン代表（日本広報学会理事） 菅原 正博 氏 話題提供者: ① 高知県立高知城歴史博物館 広報（日本広報学会会員） 大保 和巳 氏 「高知城歴史博物館における広報の現状と課題」【20 分】 ② 一般社団法人 国際 CCO 交流研究所 研究員(日本広報学会理事) 粟津 重光 氏 「企業博物館とコーポレート・コミュニケーション」【20 分】
15:50～16:00	休憩
16:00～17:00	話題提供者と会場とのディスカッション
18:00～	懇親会

■参加費

運営費としてお1人様 1000 円を申し受けます。

※当日、受付にてお支払いください。領収書も発行いたします。

■懇親会のご案内

▼研究・交流部会終了後、懇親会を開催いたします。参加費は 4500 円前後にできるよう、調整いたします。

→会場／本池澤 本店（高知市本町 2 丁目 1-19 おびさんロード商店街／☎0120-049-138）

→参加希望の方は、申込書にて申し込みください。

■参加のお申し込み

▼電子メールもしくはFAXでお申し込みください。

▼直前の申し込みも歓迎しますが、懇親会参加ご希望の場合、会場予約の都合上、11 月 19 日(水)までにお申し込みください。

【ご記載いただきたい事項】

①お名前 ②所属企業・団体名 ③部署名 ④郵便番号 ⑤住所 ⑥種別(会員、一般、大学生、大学院生) ⑦複数の場合は人数と、その方々のお名前 ⑧e-mail ⑨日中にご連絡できる電話番号 ⑩懇親会参加の有無

【申し込み先】

日本広報学会中四国部会設立準備会 部会長 島津 宛

E-mail: shimazu-hi@shouwa.or.jp / FAX 084-926-6798

※お電話でのお問い合わせは、社会医療法人祥和会 広報コミュニケーショングループ 島津まで。
☎084-975-3909

↑↑↑ FAX 084-926-6798 ↑↑↑

社会医療法人祥和会・広報コミュニケーショングループ・島津宛

2018年11月24日(土)

日本広報学会中四国部会／研究事例・交流部会
参加申込書

ふりがな お名前			様
所属企業・ 団体名			
部署名			
ご住所	〒 -		
種別	会員 ・ 一般 ・ 大学院生 ・ 大学生		
企業等で、複数で お申し込みの場合は その方々のお名前	様		様
	様		様
	様		様
e-mail			
日中に連絡できる 電話番号	()		
懇親会参加の 有無	参加 ・ 不参加		
	※当日、参加できそうでしたら、お申し出ください。お店と交渉します。		

※PDF 化してご送付の場合は、
shimazu-hi@shouwa.or.jp まで、メールに添付してお送りください。

【ご参考】

本イベントにご参加いただきたい方

- ① CCに関心のある方々で、CCについての課題や問題提議のある方々(全般)
- ② CCに関心のある方々でCCの課題に対して様々な解決策を提案できる方々(全般)
 - ② CCにこれから携わってみたい方々で、上記と同様な方々
(大学・高校生、企業人、ミュージアム・文化施設職員、病院職員、大学職員他)
- ④ CCに携わってきた方々で、上記と同様な方々
(企業、行政、大学、ミュージアム・文化施設・病院でCC関連セクション経験者)

■『コーポレート・コミュニケーション(以下CC)の課題解決に向けての ディスカッションとプレゼンテーションに取り組む』 研究事例・交流部会とは？

コーポレート・コミュニケーション(以下CC)の課題や悩みについて、解決策や方法を共有し、未解決の課題や悩みがあれば、次回以降の研究事例・交流部会で取り上げていきます。

■『CC(コーポレート・コミュニケーション)』とは？

- CCとは、企業だけでなく行政、教育機関、病院等のステークホルダーに対するコミュニケーション活動のことです。CCの基本は、どの主体においても、ステークホルダーを設定することが出発点となります。

- 企業や団体において、CC活動を展開するには、

- (1)「チーフ・コミュニケーション・オフィサー(CCO)」的な存在づくりと、その4つの役割(「コーポレートブランド・マネジメント」「ステークホルダー・マネジメント」「イシュー・マネジメント」「レピュテーション・マネジメント」)の徹底を図る。
- (2)PDCAサイクルを回す。
- (3)「自己点検・自己評価」を実施すること。

☆CCO(Chief Communication Officer (最高広報責任者)の4つの役割

- *ステークホルダー・マネジメント (企業をとりまく利害関係者の管理)
- *コーポレートブランド・マネジメント (企業ブランドの管理)
- *イシュー・マネジメント (予知・予防・危機対応の管理)
- *レピュテーション・マネジメント (企業の評判の管理)

☆CC(コーポレート・コミュニケーション)の自己点検・自己評価 (M=マネジメントの略)

- *ステークホルダー毎に、コーポレートブランドM、イシュー・M、レピュテーション・Mについての取り組みを決定し、CCの目標(数値的な)を毎年決め、PDCAサイクルをまわすこと。

- この会に集まる研究者・実務者は、戦術にはまらず・こだわらず、戦略的な取り組みの促進と徹底を狙い、これができる方々の活躍の場の拡大を目指します。

また、大学生、大学院生等に参加いただき、CCに少しでも関心のある若者の育成をめざします。